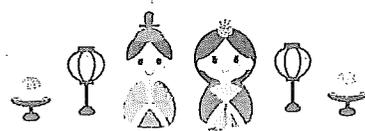


3月の園だより

2026年3月1日発行 小さな森こども園

寒さの中にも、少しずつ春の暖かい日差しが感じられるようになったこの頃。お外はぽかぽか陽気で子どもたちは元気に遊んでいます。

今年度もいよいよわずかとなりました。無事1年間を過ごせたのも保護者の皆様のご理解とご協力があったからこそです。誠にありがとうございました。来年度へ向け少しずつ準備をしながら、残りの日々も思いっきり楽しみたいと思います。



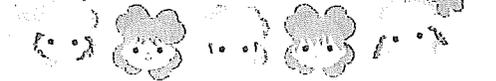
3月の行事予定

2日(月) 身体測定
3日(火) ひな祭り会
11日(水) 避難訓練
27日(金) お別れ会
28日(土) 卒園式



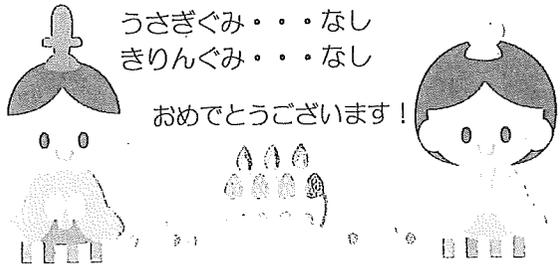
年長行事予定

4日(水) HIP HOP
5日(木) サッカー教室(レプーロ)
6日(金) 体操教室
13日(金) 英語で遊ぼう
17日(火) サッカー教室(レプーロ)
18日(水) HIP HOP
25日(水)~28日(土)
卒園合宿
27日(金) 年長保護者会



誕生日のおとぎ話

ほしぐみ・・・なし
ありぐみ・・・なし
かえるぐみ・・・なし
りすぐみ・・・2日、19日
うさぎぐみ・・・なし
きりんぐみ・・・なし



おめでとうございます!



卒園式のお迎えの時間について

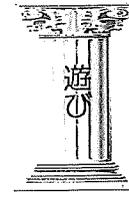
在園児の降園時間は

11:00までになります。

ご協力をお願いします。

小さな森こども園の保育は、創立者の宮本ひろ子が「どんな子どもと一緒に健康な心と体づくり」を理念に子どもの育ちを保障する保育の柱として4本の柱を示しました。

子どもの育ちを保障する小さな森こども園4本の柱



これらの土台となっているのが、斎藤公子先生のさくらさくらんぼ保育です。代表的なものにリズム運動やだし保育があります。運動会や卒園式のアトラクションなどおなじみのあの種目もさくらさくらんぼがベースになっています。文字を教えたり、お遊戯などはせず一人一人の発達を保障するため、自然の中でたくさん体を使って遊び、健康な心と体を育てています。

今回は、インスタグラムでさくらさくらんぼ保育を分かりやすく説明している、さとうたけしさんの投稿をご紹介します。

• 遊びきることの大切さ

「子どもは遊びを通して発達する」というのは、誰しも認識しているところですが、さくらさくらんぼ保育では、それでは不十分だと考えます。なぜかという、ただ遊ぶのではなく「遊びきる」ことが大切だからです。遊びというのは、運動状態にあることです。子どもは運動状態にあると、身体の機能が発達していく生き物ですから、ただ単に遊ぶのではありません。優れた環境の中で、五感をフルに使って寝ている時以外、遊んでいるくらいの勢いで遊び切ることで、初めて子どもの発達を最大限に保障してやる事ができるのです。ホンモノの花。ホンモノの虫。ホンモノの鳥。ホンモノの自然。こうしたものに触れ、驚き、感動し、育っていく年齢であることを大人が自覚するならば、子どもが多少の危険をおかしてでも、安全に遊びきる事ができる環境を整えてやるのは、大人の責任であり社会の責任なのです。

• 誰も気づかなかった親指と子どもの発達

さくらさくらんぼ保育では、保育をするうえで「親指を使う」ことを大切にしています。その理由が、... 脳の発達に異常があると、親指がいつまでも内側にしまわれたままであることや親指が外に出るような刺激を与え続けると、多くの身体の機能が自然と発達してくることを、斎藤公子自身が経験によって見出したからです。

また赤ちゃんは、無意識に足の親指を地面につけハイハイをしようとしてします。興味深いことに、自閉症やレット症候群の子はこの「親指をつけたハイハイ」ができないのです。こうした事実を踏まえて、さくらさくらんぼ保育では素足で過ごしたり、雑巾がけをしたり、リズムを行っているのです。外から見ると、こうした姿は「野生児」とか言われますが、実はものすごく科学的な保育である事がお分かりいただけるかと思います。乳幼児保育は、人生の土台を創る大切な時期。見てくれに騙されて、本当に重要な子どもの育ちを、逃すようなことをしてはいけません。